ハッピーエンド後日談（体験版）.txt

＊ハッピーエンド後日談の体験版です。冒頭から1456文字まで読めます＊

ガドルスとフレイアが13年ぶりに再会して、一緒に旅立って、1年…

時間をかけて心を近付け、実の兄弟である事実を乗り越え、初めて結ばれた。

その翌朝、結婚の約束をして、誓いのキスをして、1時間後…

「フレイア、これ…」

「え！？」

突然、指輪を渡された。
シンプルな赤い綺麗なリング…

「こ、これ、結婚指輪？」

ビックリしてしまった。
初めて結ばれたのは昨日の夜で、結婚の約束をしたのは1時間前だ。
当然結婚指輪を買うのはこれからだとばかり思っていた。

「え、もう買ってたの？」

「うん、お前と旅立ってから、俺はお前との将来を常々考えてたんだよ。
俺の嫁はフレイアしか居ない、って本能で確信してたしさ…
絶対渡すことになるだろうと思って、結構前に用意してたんだ。」

ガドルスは、はにかんで照れくさそうに言う。

「そうなんだね、ありがとう…この指輪、火炎石（かえんせき）で出来てる？」

火炎石とは、炎での攻撃を軽減する効果がある貴重な宝石。

「うん、俺の知り合いに、火炎石職人が居てさ…密かに電話で事情話してオーダーしてたんだ。」

「さすがお兄ちゃん、顔が広いねぇ。この色、お兄ちゃんの瞳の色にそっくりだね。」

「お前の瞳の色にもそっくりだよ。」

容姿に共通点のない兄弟だが、唯一瞳の色だけは同じで、炎のような赤だった。

「兄弟だけど夫婦としてずっと愛し合います、っていう密かな決意も込めてこの色にしたんだ。」

「ああ〜そういうふたりにしか分からない決意を込めた指輪って、素敵だね！」

「付けようぜ。」

「うん！」

フレイアがワクワクしながら左手を出すと、薬指に付けてくれた。

フレイアも照れながら、ガドルスの左手薬指に付ける。

「…よし、このまま婚姻届けも出しちまおうぜ！」

「はーい☆」

最寄りの町の冒険者ギルドに駆け込み、婚姻届けを提出した。

この世界は同性愛には寛容だが、さすがに実のきょうだいでの婚姻は認められていない。

しかしガドルスは実家の籍からは抹消され「アーネスト家」というところの人間になっている。
ガドルスとフレイアは、血縁的には兄弟だが、戸籍的には他人。
そのため出そうと思えば、婚姻届けも普通に出せてしまうのだ。
実の両親も、アーネスト家の義両親も亡くなっているため、完全にガドルスとフレイアの自由だった。
（＊このあたりの事情は「アイウエオブラザーコンプレックス」本編のことなので割愛＊）

（俺、今から「フレイア・アーネスト」なんだ…）

婚姻届けを出し終え、結婚指輪を見ながら、フレイアがニヤニヤしていると…

「フレイア…」

「お兄ちゃん…」

自然にギューと抱き合った。

しばらくそのままで居たが…

「……なぁ、フレイア…」

「何…？あ、もう、お兄ちゃんったら♪」

抱き合っているガドルスの股間が固くなっていることに気付くフレイア。

愛する兄（さっき夫になったが）が抱き合っただけで勃起してくれていると思うと…

「あはは、俺も固くなっちゃった☆」

「可愛い奴め～じゃまだ昼で早いけど、タイミングよく手ごろなホテルもあるし…」

この世界にもラブホテルのような性行為をするのが目的のホテルはある。
それがちょうど視界に見える範囲の距離にある。

「あそこでさっそく熱い新婚初夜を過ごそうか？」

「わぁ、嬉しい！けど…「初夜」じゃないよね…」

フレイアはちょっとバツが悪くなった。
初めてのセックスは、昨日の夜にしたから。
残念ながら「初夜」は終わっている。

「細かいこと言うな！「結婚してから」初めての夜だから、「新婚初夜」でいいんだよ(笑)」

「あ、うん、お兄ちゃんがそう言うなら…わ、引っ張らないで～☆」